

共同研究の経過と概要

田中大喜

本研究報告は、二〇一六年度から二〇一八年度にかけて実施された、国立歴史民俗博物館基幹研究「中世日本の地域社会における武家領主支配の研究」の成果をまとめたものである。本共同研究は、「歴史文化資料に基づく日本中世社会像の再構築」（全三プランチ）の一プランチとして設定されたものである。

一 目的と方法

およそ十二〜十六世紀の「日本の中世」と呼ばれる時代は、世襲制の職業戦士である武士という社会集団を生み出し、彼らの支配が地域社会レベルにまで浸透した時代である。したがって、中世の日本社会においては、武士の支配がいかにして浸透し受容されたのかを明らかにすることは、その歴史的特質を究明するうえで必須の課題であるといえる。そこで本共同研究では、中世の地域社会において武士の領主支配が受容された諸契機を究明することで、中世の日本社会の歴史的特質に迫ることを目的とする。

武士による領主支配の内実を、地域社会との関わりのなかから追究する本共同研究は、一九八〇年代以来積み重ねられてきた中世地域社会論の成果を直接の前提としており、その発展的継承を目指すものである。

すなわち、武士も地域社会を構成した社会集団の一つと捉え、武士の領主支配は地域社会の諸集団との「合意」なしには成立しえないとの認識を共有する。そのうえで、武士の屋敷を中心に、その周囲にある河川や道路、水陸交通路の結節点に設けられ地域の再生産を支えた集散地、所領内の田畠を灌漑する用水路、そして一族・祖先の極楽往生と民衆の暮らしの安穩を祈る寺社が関連づけられて形成された武士の本拠地と支配拠点の様相について、文献史学・考古学・民俗学の協業にもとづく現地調査を通じて具体的に復元することで、武士の領主支配が地域社会に受容された諸契機を明らかにしたい。

一方、ここで留意すべきは、中世前期以来武士の所領支配・維持は、武家政権・荘園領主・守護等の地域権力のほか、一族や近隣の武士たちとの多元的な結びつきのなかで実現されたという事実である。地域社会との関わりに加えて、こうした中世武士の所領支配・維持を支えた中央（京・鎌倉）と地域双方に張りめぐらされた多元的なネットワークの具体相と、中世を通じてその変化の様相について、政治史を踏まえながら追究することも、中世武士の領主支配の内実を明らかにするうえで重要な課題となる。

以上の研究課題を遂行するべく、本共同研究では、石見国の益田川・

高津川下流域社会（現島根県益田市北部）を基軸事例に取り上げる。中世において益田荘と長野荘という二つの荘園が存在した当該地域は、前近代の現地景観が良好に残されているほか、中世の遺跡や出土遺物が豊富にあり、さらには益田川・高津川下流域社会に割拠した益田氏と内田氏・保賀氏の家伝文書群が現存しているなど、上記の研究課題を遂行するうえで好個のフィールドになるからである。

しかし、領主支配のあり方は地域ごとに多様であるため、異なる地域との比較によって、その本質を究明することができると考える。そこで本共同研究では、豊かな先行研究を有する肥前国小城郡（現佐賀県小城市）と越後国奥山荘（現新潟県胎内市）を比較対象地域とし、これらとの比較を通して研究を進めていくこととする。また、共同研究員それぞれが精通しているフィールドとの比較もあわせて行いたい。

二 研究組織

【共同研究員・館外】五十音順、所属・職名は二〇一八年度

井上 聡 東京大学史料編纂所・助教
小野正敏 国立歴史民俗博物館・名誉教授
貴田 潔 静岡大学・准教授
黒嶋 敏 東京大学史料編纂所・准教授
清水 亮 埼玉大学・准教授
鈴木康之 県立広島大学・教授
高木徳郎 早稲田大学・教授
高橋典幸 東京大学大学院・准教授
田久保佳寛 小城市教育委員会・係長
中島圭一 慶應義塾大学・教授
中司健一 益田市歴史文化研究センター・主任
西田友広 東京大学史料編纂所・助教

水澤幸一 胎内市教育委員会・参事
湯浅治久 専修大学・教授

【共同研究員・館内】五十音順、◎は研究代表者、○は研究副代表者

荒木和憲 本館研究部・准教授
小島道裕 本館研究部・教授
◎田中大喜 本館研究部・准教授
○松田睦彦 本館研究部・准教授
村木二郎 本館研究部・准教授

【研究協力者】五十音順、所属・職名は二〇一八年度

池谷初恵 伊豆の国市教育委員会・文化財調査員
後藤 真 本館研究部・准教授
佐々木健策 小田原城総合管理事務所・主査
鈴木卓治 本館研究部・教授
渡邊浩貴 神奈川県立歴史博物館・学芸員

三 研究の経過

二〇一六年度

【研究会】

○第一回研究会

実施日…二〇一六年六月四日（土）・五日（日）

場 所…国立歴史民俗博物館

研究報告…田中大喜「共同研究の課題と計画」

渡邊浩貴「山間荘園の在地領主と生業環境・紛争」

井上 聡「史料編纂所における調査情報の収集・管理・活用について」

後藤 真「歴博における荘園データベースの発展型プロト

タイプと「総合資料学」

総合展示第二室の関係展示の見学

○第二回研究会

実施日…二〇一六年九月一日(木)～三日(土)

場 所…島根県益田市

研究報告…西田友広「中世前期の益田氏と石見国」

中司健一「中世後期長野庄をめぐる諸勢力の動向」

荒木和憲「中世後期の日本海交通における対馬と石見」

石見国長野荘・益田荘故地巡見



写真1 益田市での研究会

【資料・現地調査】

○第一回資料・現地調査

実施日…二〇一六年五月十三日(金)～十六日(月)

場 所…島根県益田市

参加者…田中・中司・松田・渡邊

調査内容…益田市横田町・本俣賀町・左ヶ山町・須子町での棟札・聞き取り調査

き取り調査



写真2 左ヶ山町での聞き取り調査

○第二回資料・現地調査

実施日…二〇一六年八月十七日(水)・十八日(木)

場 所…広島大学図書館

参加者…田中・渡邊

調査内容…広島大学図書館所蔵「益田市地図」の調査・撮影

○第三回資料・現地調査

実施日…二〇一六年九月三日(土)～五日(月)

場 所…島根県益田市

参加者…荒木・池谷・小野・佐々木・清水・鈴木・高木・田中・中

司・松田・村木・渡邊・倉恒康一（鳥根県古代文化研究センター）

調査内容…益田市高津町・虫追町・安富町・左ヶ山町（二日に実施）・梅月町での聞き取り調査
浜寄・地方遺跡、河成遺跡、羽場遺跡、中小路遺跡、大畑遺跡、家下遺跡、丸山遺跡、七尾城跡出土貿易陶磁調査



写真3 益田市での貿易陶磁調査

○第四回資料・現地調査

実施日…二〇一六年九月十五日（木）・二十三日（金）
場 所…日本大学図書館所沢分館
参加者…荒木・田中・渡邊
調査内容…日本大学図書館所蔵「石見国俣賀氏文書」の調査

○第五回資料・現地調査

実施日…二〇一六年十一月十七日（木）・十八日（金）

場 所…皇學館大学・花園大学情報センター（図書館）
参加者…荒木・田中・渡邊

調査内容…皇學館大学文学部所蔵「内田俣賀文書」、花園大学情報センター（図書館）所蔵「俣賀家文書」の調査・撮影

○第六回資料・現地調査

実施日…二〇一六年十一月二十八日（月）
場 所…熱田神宮文化殿
参加者…田中
調査内容…恵良宏氏所蔵高師泰感状の調査・撮影

○第七回資料・現地調査

実施日…二〇一七年一月十八日（水）
場 所…足利市立美術館
参加者…荒木・田中・渡邊
調査内容…足利市民文化財団所蔵足利尊氏軍勢催促状の調査・撮影

○第八回資料・現地調査

実施日…二〇一七年二月一日（水）～三日（金）
場 所…広島大学図書館・浜田市浜田郷土資料館・鳥根県立古代出雲歴史博物館
参加者…田中・渡邊
調査内容…広島大学図書館所蔵「益田市地図」、浜田市教育委員会所蔵「元和石見国絵図」・「元禄石見国絵図」／石見国天保国絵図懸紙改切絵図、鳥根県立古代出雲歴史博物館所蔵「寛永石見国絵図」の調査・撮影

○第九回資料・現地調査

実施日…二〇一七年二月十日(金)～十三日(月)

場 所…島根県益田市

参加者…荒木・池谷・小野・佐々木・鈴木・高木・田中・中司・水澤・村木・渡邊

調査内容…益田市飯田町・横田町での聞き取り調査、津和野町教育委員会所蔵「正保石見国絵図」二鋪・「元禄十年改津和野領之図」の調査・撮影

七尾城跡、三宅御土居出土貿易陶磁調査

二〇一七年度

【研究会】

○第三回研究会

実施日…二〇一七年四月二十九日(土)・三十日(日)

場 所…国立歴史民俗博物館

研究報告…田中大喜「俣賀文書調査報告と俣賀氏系図復元の試み」

村木二郎・池谷初恵・小野正敏・佐々木健策・鈴木康之・水澤幸一「陶磁器からみた中世益田―陶磁器調査経過報告―」

松田睦彦「近現代益田の生業―聞き取り調査成果報告―」

渡邊浩貴「長野荘の中世景観と領主拠点―荘園現地調査経過報告―」

湯浅治久「肥前千葉氏に関する論点と史料」
貴田 潔「佐賀・筑後平野の地理的環境と地域社会」

○第四回研究会

実施日…二〇一七年九月六日(水)～八日(金)

場 所…佐賀県小城市・神埼市

研究報告…高橋典幸「御家人の西遷について」

大塚俊司(佐賀大学地域学歴史文化研究センター)「中世後期の肥前千葉氏―南北朝・室町期を中心に―」

肥前国小城市・神埼郡故地巡見

○第五回研究会

実施日…二〇一八年三月十七日(土)・十八日(日)

場 所…国立歴史民俗博物館、千葉県多胡町・千葉市

研究報告…田中大喜・荒木和憲・貴田潔・高木徳郎・田久保佳寛・中司健一「中世益田・小城領主拠点現地調査経過報告」

村木二郎・池谷初恵・小野正敏・佐々木健策・鈴木康之・水澤幸一・小出麻友美・李明玉「陶磁器からみた中世益田

2・小城―陶磁器調査経過報告―」

小野正敏「東国武士の館をめぐる景観と威信財」

下総国千田荘・千葉荘故地巡見

【資料・現地調査】

○第十回資料・現地調査

実施日…二〇一七年四月十六日(日)

場 所…宮城県図書館

参加者…田中・渡邊

調査内容…宮城県図書館所蔵「石見国図」の調査・撮影

○第十一回資料・現地調査

実施日…二〇一七年五月三十一日(水)

場 所…益田實氏自宅

参加者…荒木・田中・中島・中司・西田・村井祐樹（東京大学史料
編纂所）
調査内容…益田實氏所蔵文書の調査・撮影

○第十二回資料・現地調査

実施日…二〇一七年七月十日（月）・十一日（火）
場 所…島根県公文書センター
参加者…荒木・田中

調査内容…島根県公文書センター所蔵「島根県道水路図」の調査・撮影

○第十三回資料・現地調査

実施日…二〇一七年七月二十一日（金）～二十四日（月）
場 所…島根県益田市
参加者…荒木・池谷・小野・佐々木・鈴木・高木・田中・中司・水澤・村木

調査内容…益田市高津町・安富町・横田町・本俣賀町での聞き取り調査、中須公民館所蔵文書・豊田公民館所蔵文書の調査・撮影
大年ノ元遺跡、下都茂原遺跡、龍光遺跡、唐干田遺跡、大石前遺跡、酒屋原遺跡、中須西原遺跡出土貿易陶磁調査

○第十四回資料・現地調査

実施日…二〇一七年九月八日（金）～十日（日）
場 所…佐賀県小城市
参加者…池谷・小野・貴田・佐々木・鈴木・田久保・田中・水澤・村木

調査内容…小城市三間寺地区・牛尾門前地区・赤司地区での聞き取り調査、小城市教育委員会所蔵地籍図・円通寺所蔵文書・三岳寺所蔵文書の調査・撮影

久米遺跡、社遺跡、戌遺跡、本告遺跡、小路遺跡、赤司遺跡、布施ヶ里遺跡、妙見遺跡、北滝遺跡、古町遺跡、千葉城跡出土貿易陶磁の調査

○第十五回資料・現地調査

実施日…二〇一八年一月十六日（火）・十七日（水）
場 所…広島大学図書館
参加者…田中・渡邊

調査内容…広島大学図書館所蔵「益田市地図」の調査・撮影

○第十六回資料・現地調査

実施日…二〇一八年二月一日（木）～四日（日）
場 所…島根県益田市
参加者…荒木・池谷・小野・佐々木・鈴木・高木・田中・中司・松田・水澤・村木・李明玉（韓国国立文化財研究所）・小出麻友美（慶應義塾大学）・藤澤良祐（愛知学院大学）

調査内容…益田市高津町・横田町・中須町・中島町・乙吉町・七尾町・本町・幸町での聞き取り調査、乙吉八幡宮所蔵文書・妙義寺所蔵文書・萬福寺所蔵文書の調査・撮影
中須西原遺跡、屋加田遺跡、中須東原遺跡出土貿易陶磁調査

国立歴史民俗博物館共同研究事業中間報告会「中世の宝庫 長野荘（益田市西部）に光が当たる！」（二月四日、益田市立保健センター）
田中大喜「長野荘の領主拠点を探る―もう一つの中世益

田の世界―

村木二郎「陶磁器からわかる中世の益田」
松田睦彦「近現代の長野荘―『なりわい』をめぐる聞き取り調査の成果―」

絵図を主題に―

黒嶋 敏「奥羽から見た越後応永の乱」
水澤幸一「貿易陶磁の流通経路（地域性）と使用者による差」



写真4 妙義寺での文書調査



写真5 中間報告会

二〇一八年度

【研究会】

○第六回研究会

実施日…二〇一八年六月二十三日（土）・二十四日（日）

場 所…国立歴史民俗博物館

研究報告…中島圭一「石見国長野荘における領主の諸類型」

小島道裕「石見益田と戦国・織豊期城下町研究―モノから

コトへ―」

鈴木康之「御家人長井氏と草戸千軒町遺跡」

井上 聡「南九州における地頭拠点の検討―日置北郷中分

○第七回研究会

実施日…二〇一八年九月五日（水）～七日（金）

場 所…福島県会津若松市、新潟県阿賀野市・胎内市・村上市

研究報告…高橋典幸「御家人の西遷について その2」

貴田 潔「小城北部エリアにおける現地調査の経過報告」

西田友広「高津川流域での材木生産を考える」

中司健一「中世石見西部における河川交通と益田氏・吉見

氏」

新潟県立埋蔵文化財センター企画展示「丸木舟の考古学」見学

越後国奥山荘・小泉荘故地巡見

○第八回研究会

実施日…二〇一八年十一月三日（土）・四日（日）

場 所…静岡県菊川市・牧之原市・島田市

遠江国内田荘・横地・相良荘・勝間田荘故地巡見、千葉山智満寺境内

見学

○第九回研究会

実施日…二〇一九年三月二十七日（水）・二十八日（木）

場 所…国立歴史民俗博物館

研究報告…渡邊浩貴「西遷御家人の水資源開発と所領再編―西遷地頭

開発論の再検討―」

清水 亮「鎌倉幕府の地頭請所政策と荘園制」

高木徳郎「荘園制的領域支配の成立と在地領主の生業」

湯浅治久「近江佐々木氏の『西遷』（回帰）について―佐々

木京極氏・佐々木朽木氏を事例に―」

田中大喜・松田睦彦・村木二郎「中世高津川・益田川中下

流域社会現地調査成果報告と共同研究総括」

【資料・現地調査】

○第十七回資料・現地調査

実施日：二〇一八年七月五日（金）～八日（月）

場 所：島根県益田市

参加者：荒木・池谷・小野・佐々木・鈴木・田中・中司・松田・水

澤・村木

調査内容：益田市高津町・横田町・市原町・角井町・本俣賀町・七尾

町・本町・幸町・染羽町・東町・三宅町・昭和町での聞き

取り調査

中須東原遺跡出土貿易陶磁調査

○第十八回資料・現地調査

実施日：二〇一八年八月二十二日（木）～二十五日（日）

場 所：島根県公文書センター・島根県立古代出雲歴史博物館・島

根県立理蔵文化財センター

参加者：池谷・小野・佐々木・鈴木・田中・水澤・村木

調査内容：島根県公文書センター所蔵「島根県道水路図」の調査・撮

影、島根県立古代出雲歴史博物館所蔵「石見国高津川水域

大絵図」・足利直冬下文の撮影・調査

沖手遺跡出土貿易陶磁（島根県所蔵分）調査

○第十九回資料・現地調査

実施日：二〇一九年二月十五日（金）～十八日（月）

場 所：島根県益田市

参加者：池谷・小野・佐々木・鈴木・田中・中司・松田・水澤・村

木・渡邊・小出

調査内容：益田市高津町・乙吉町・七尾町・本町・幸町・染羽町・東町・

三宅町・昭和町での聞き取り調査、松本祐二氏所蔵文書・

教正寺所蔵文書の調査・撮影、俣賀氏山城・豊田城の踏査

沖手遺跡出土貿易陶磁（益田市所蔵分）調査



写真6 俣賀氏山城の踏査

四 共同研究の成果

本共同研究では、中世地域社会論の視座と成果を継承し、石見国の益田川・高津川下流域社会を基軸事例として、文献史学・考古学・民俗学の協業にもとづく現地調査によって当該地域に割拠した武士たち

の本拠の様相を具体的に復元することによって、武士の領支配が地域社会に受容された諸契機の究明を試みた。現地調査の成果については、二〇一七年度の市民を対象とした国立歴史民俗博物館共同研究事業中間報告会「中世の宝庫 長野荘（益田市西部）に光が当たる！」での報告や、『中世益田現地調査成果概報 vol.1〜3』（国立歴史民俗博物館、二〇一七年・二〇一八年・二〇二〇年）の刊行によって速報的に公表してきたが、本研究報告の「中世益田現地調査成果報告」が正報告となるので参照されたい。また、本共同研究では、共同研究員・研究協力者・ゲストスピーカーによる都合三十四本の研究報告が行われた。本研究報告に掲載された論考は、これら研究報告の一部である。

本共同研究が基軸事例とした益田川・高津川下流域社会には、中世において益田荘と長野荘という二つの荘園が存在した。このうち高津川流域一帯を荘域とした長野荘については、これまで関係する文献史料が少ないこともあって、ほとんど研究がなされてこなかった。そこで本共同研究では、長野荘の実態解明も意識して進めたが、長野荘に関するまとまった文献史料に同荘豊田郷侯賀に本拠を形成した侯賀氏の家伝文書群である「侯賀文書」があったため、この原本調査と侯賀氏の領支配に関する研究を先行して行った。その成果は、田中大喜『侯賀文書』の史料学的基础考察』（『国立歴史民俗博物館研究報告』二二二集、二〇一八年）、渡邊浩貴「石見国長野荘侯賀氏の本拠景観と生業・紛争」（同上）として公表した。

二〇一七年度に、益田實氏が所蔵する文書のなかに長野荘に関わる新出の中世文書が多数含まれていることが判明し、その原本調査を行うことができた。これは、長野荘に関する文献史料には制約があるという現状を打開する画期的な出来事となった。この原本調査の成果は、田中大喜・中島圭一・中司健一・西田友広・渡邊浩貴「益田實氏所蔵新出中世文書の紹介」（同上）として公表した。

この新出中世文書のなかに、高津川の河口域に所在した長野荘高津郷に港があったことを示す、延応二年（一二四〇）四月二十六日付北条重時書状が含まれていたことは大きな発見となった。というのも、これまで高津郷の故地である益田市高津町には、かつて港があったことを示唆する「船入」という字名が確認できるものの、発掘による調査が行われてこなかったため、果たして中世に港が存在したのか不明だったからである。しかし、本史料の発見により、十三世紀前半までに高津郷に港が成立していたことが確実となった。これにより、発掘調査によって同時期に存在していたことが証明されている益田川河口域の沖手港・中須港との関係性が議論できる環境が整い、田中大喜「中世石見国高津川・益田川河口域港湾の基礎的研究」（『国立歴史民俗博物館研究報告』二二三集、二〇二一年）によって中世の益田川・高津川河口域の様相が具体的に明らかになったのである。このように益田實氏所蔵の新出中世文書は、長野荘の実態解明を促進する貴重な史料群であり、今後の活用が大いに期待される。

中世の益田川・高津川下流域社会に関わる本共同研究の成果は、本研究報告の刊行に先立って歴博フォーラム「中世益田の世界」（於島根県立石見美術館、二〇一九年十一月二日）を開催し、市民への研究成果の還元を目的として公表した。その後、本フォーラムの内容は、田中大喜編『中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る』（勉誠出版、二〇二一年）として刊行した。また、本共同研究の成果は、国立歴史民俗博物館企画展示「中世武士団―地域に生きた武家の領主―」（二〇二二年三月十五日〜五月八日）にも反映させ、社会に広く発信した。本研究報告は、以上の成果をも踏まえて、本共同研究の総括として刊行するものである。

なお、本研究報告所収の中司健一「石見国長野荘をめぐる諸領主の動向」と西田友広「材木の生産・流通と領主」は、前掲『中世武家領主



七尾城跡から益田市街を望む



新潟県胎内市韋駄天山遺跡にて（第7回研究会）

の世界』所収の両氏の論考と内容が重複するところが大きい。これは、『中世武家領主の世界』よりも前に本研究報告が刊行されるだろうとの見通しのもと、『中世武家領主の世界』を一般読者も対象とした書籍とすることを企図し、編者がすでに本研究報告の原稿を提出していた両氏

に一般読者向けに書き直すよう依頼して執筆していただいたところ、本研究報告の刊行が遅れたことによる。したがって、この責任はひとえに編者にある。諸賢には、この間の事情にご理解とご了承を賜るよう、お願い申し上げる次第である。

（国立歴史民俗博物館研究部）